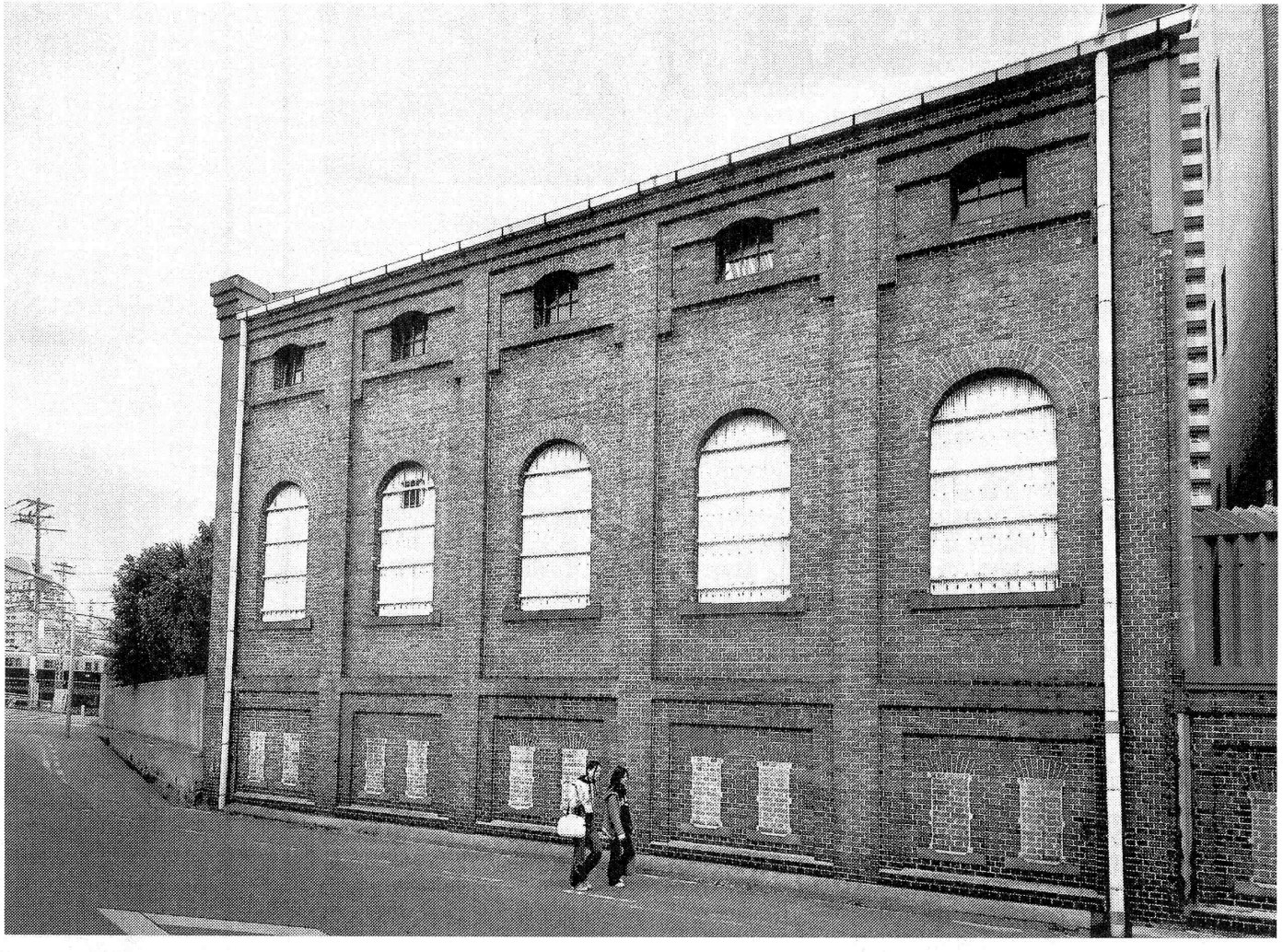
レンガ造りの旧尼崎発電所の建物は阪神尼崎駅のホームからも見ることができる



# 阪神電鉄開業100周年

## はんしんeyes

写真・文　山田哲也

■■■6

## 旧尼崎発電所

1905（明治38）年4月12日午前5時、一番電車が出入橋（現在の梅田―福島駅間）から三宮に向けて発車した。それから1世紀。今年4月、阪神電鉄が開業100周年を迎えた。開業当時の面影をしのばせるレトロな建物が、尼崎駅隣に現存する旧尼崎発電所だ。

ここが阪神電鉄創業の地とされ、南側道路には「発電所跡」と書かれた看板が掛かっており、現在は倉庫として使われている。

英国人技師の設計で、英国から輸入した赤レンガと米国のカーネギー製鋼材が使われ、西側に大きな煙突が建てられた。

当時の電鉄会社は、鉄道と電気販売を組み合わせた事業形態で、阪神電車も尼崎と御影に発電所を持ち、沿線に家庭用電気と工業用電力を供給して大きな収入源にしていた。発電所は1919（大正8）年まで稼働し、その後は配電所として使われ、42（昭和17）年、国の方針で関西電力に事業を引き継いでからは倉庫などに転用されてきた。

今年は阪神タイガース誕生から70周年の節目の年。古い建物が見直されている昨今、旧尼崎発電所を阪神電鉄グループの歴史を伝える「創業記念館」として整備したら、どうだろうか。